

雨あがりのにじ 【中学年3 - (3)】

- 視聴覚資料や「心のノート」を活用した取組み -

(1) 主題名 美しいものに感動する心 [3 - (3)] 関連項目 [3 - (1)]

(2) ねらい 日常生活を通して出会う自然の美しさやすばらしさに気付き、美しいものや気高いものに素直に感動する心情を育てる。

(3) 資料名 「雨あがりのにじ」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 イメージゲーム 「ハイキングに出かけよう」をする。	今からハイキングに出かけます。目を閉じて音を聞きながらどんな場所か、また、どんな気持ちになるかイメージしてみましょう。 ・山の朝 など	効果音を聞かせることによって、想像力を働かせ、自然の情景をイメージできるようにする。
展開	2 資料の前半を読み、けんかしてしまったわけやその時の腹立たしい気持ちについて考える。	こうたくんの家を飛び出した時、たかしくんはどんな気持ちだったでしょう。 ・あんな言いいたするなんてひどい。 ・はらがたってたまらない。 ・もう、友だちじゃない。	いつもはとても仲よしの二人であるが、その日は、こうたくんがおもしろくないことがあってむしゃくしゃしていたことを押さえる。
	3 資料の後半を読み主人公たちの気持ちの変化について考える。	どうして虹を見て仲直りする気持ちになったのでしょう。 ・きれいなにじを見ていたら気持ちがすうっとしてきたから。 ・きれいなけしきを見て、むしゃくしゃしていた気持ちがおさまったから。 ・にじを見ているとちょっとしたことに腹を立てた自分がはずかしくなった。	虹の出ている風景を実際に投影しながら、主人公たちの気持ちにより迫らせるようにする。
終末	4 自分たちの経験について話し合う。	たかしくんたちのように何かを見たり聞いたりしたことで気持ちがすっきりしたことはありませんか。	教師の体験談も紹介する。
	5 「心のノート」p 60, 61 の写真を見たり、音を聞いたりしながら美しい自然の情景を想像する。	p 60, 61 の写真を見ながらどんな音が聞こえるか想像してみましょう。 目を閉じて川の流れる音を聞いてみましょう。どんな景色が見えますか。	溪流の効果音を流しながら情景を想像させるようにする。

虹の通りのじ

「いつたくななせか、 やがれいじだ。」

たかしくんせ、 大きな声で叫んだ。他のたくさんの家を飛び出しました。外は、まだ少し雨がふっていました。たかしくんせ、 河に流れながら河原まで歩いていました。そのまま家に歩き戻る気にならず、 路地のあらべんこやかわねいへりやのむらのかのじんを弔へてこました。

たかしくんせといつたくんせ、 いつもなかよしだ。学校でも家に歸つてもよく遊びます。今日も、一人はいつたくんの家で、ゲームをして遊んでこました。こつむはまおまつねいじのなこたかしくんですが、 今日せ、 学校でおもしろくなじがあつてもしゃべじやしてこたせいが、 いつたくとの

「へたくそだなあ。」

といひじとばにならが立た、 ここあらわこになつてしまつたのです。

「いつたくんが、 懸こんだ。」

河原のベンチにすわって、 たかしくんせが立ちました。ふとおわつを睨み、 やつせがでふつてこた雨はやみ、 雨にまつわ田かわしまじめしてこました。たかしくんせ、 いつたくのつかじかわをわすれでいたことじにじめきました。

(おじいじとび出したから、 かわをわすれけやつた。)

たかしくんせ、 いつたくんのつかじかわをとつこにやどりかと懸こました。かんかのじとを弔えるとなんだかやどりがへて、 そのまお河原のかしわをながめてこました。

雨はやみ、 雨は晴るべなりてこました。

「あつ。 じじだ。」

たかしくんせ、 雨あがつのじじが出てこむのを覗つた。じじせ、 緑の三十手の向いがわで、 七色の光をはなつてこました。

「わあ。 赤、 黄色、 緑、 青・・・。 これこんな色があつて本物しかれこだなあ。」

たかしくんせ、 久しぶりに見たじじのじつへっせじじとつじ、 じまじじじじみどれていました。じじのトドけ、 雨にぬれた三十手の草がキラキラかがやいてとてもすがすがしいけしきでした。ふしあないと、 先のけしきを見っこねど、 わたわがではだたしかった気持ちがなんだかすいのとこすまつてくのもつでした。



(「うわー、いつたくんはみんなでかわいいんだね！」)

たかしくんは、いつたくんにひどい顔の方をしてしまった自分が、少しうまくこなつてきました。

（あやまつにじつつかな。でも、せりいはだなんで壁のたかいく、いつたくん、おねこちゃんにいかもしかなこな）

たかしくんは、色とりどりの壁を見ながら少しもよつとになりました。

でも、それになにじを見てこぬと何だか仲直つしたくなつてしましました。たかしくんは自分からあやまつに決心し、いつたくんの家に行つてしまふことにしました。

いつたくんのお母さんとおんなじおやじ、デキデキしながら、一塗のいつたくんの部屋に入りました。めどの外をながめていたいつたくんがいつたくんをふつむきました。

「いつたくん。わいわいめんね。」

と、たかしくんが少しじれくれなかつて壁こました。

「ほくほく、ひどこ前にかたして、こめぐね。」

と、いつたくんもやせこい顔で壁こました。

「それにしても、きれいなじゅう。」

一人はいつたくんを眺め、めどの外をおしゃかにかがやく壁こいつよに見つめていました。



活用に生かすための実践報告

「雨あがりのにじ」

議さをできるだけ多く出させるようにする。

1 主題の設定

中学年になると、認識能力の発達に伴い、子どもたちの想像力や感受性が高まってくる。こうした時期に想像力や感性の育成を図り、日常生活を通して出会う自然の美しさやすばらしさに感動する心情を育てることは、大切なことと考える。

本資料では、子どもたちが自然の美しさやすばらしさをしっかりと感じ取ることができるように、日頃にする機会の多い「虹」を取り上げる。

2 指導過程の工夫

導入では、「鳥のさえずり」や「波音」、「雨音」などの効果音を聞きながら、情景を自由にイメージさせる活動を取り入れる。

展開では、主人公の見た風景をイメージしやすいよう、数枚の虹の写真をスクリーンに投影する。

終末では、「心のノート」p 60, 61 の写真や渓流の効果音を活用し、美しい自然の情景を想像させる。

3 発問の工夫

展開前段では、友人の家を飛び出したときの主人公の気持ちを問い合わせ、けんかしてむしゃくしゃした主人公の気持ちにしっかりと寄り添わせるようにする。子どもたちの意識が「友情」や「思慮・反省」に向かないよう、中心発問は「仲直りする気持ちにさせたもの」を問うものとする。

展開後段では、主人公のように何かを見たり聞いたりしたことで気持ちがすっきりした経験について尋ね、子どもたちが日常のいろいろな場面で出会う自然の美しさや不思

4 児童の反応

【仲直りする気持ちになった主人公について】

- ・にじがとってもきれいだから、気持ちがすっきりしてなか直りしたくなった。
- ・きれいな色のにじを見ていると、おこった自分がはずかしくなってきた。
- ・きれいなにじを見ていると心がいやされて、こうたくんにあやまりたくなかった。

【自然を見て気持ちがすっとした経験】

- ・きれいな青空を見ていると気持ちがすうっとして、はらがたっていたのがなあった。
- ・青い空にあるきれいな雲を見ていると、何だか楽しい気持ちになった。
- ・風で草がざわざわいうのを聞いていたら、とっても気持ちがよくなった。
- ・川の水が流れるのを見ていると、いやなこともいっしょに流れていくように思った。

5 実践者からの一言

美しい虹の写真をスクリーンに投影したことは、自然の美しさを感じ取らせるために大変効果的であった。

導入や終末で自然の効果音を聞かせ、情景を自由に想像させる活動を取り入れたことは、子どもたちの想像力や発言意欲を高めるために大変効果的であった。

授業は子どもたちが床の上に座る形で行った。終末では、床に寝て渓流の音を聞きながら情景を想像する形を取ったが、子どもたちはとてもリラックスできたようである。

教師が予想した以上に、子どもたちは自然の美しさに感動した経験を発表した。子どもたちの想像力や感受性の豊かさに教師自身が驚かされた授業であった。

(竹屋小学校 森川敦子)